



若 草

令和8年度 5月号 R8. 5. 1

「サキドリ 研究校指定」

本校は、文部科学省より令和8年度・9年度の「サキドリ研究校」に指定されました。「サキドリ研究」とは、改訂が予定されている「学習指導要領」で取り上げられる、「調整時間数制度」を活用して、より柔軟な教育課程を編成し、子供たちの学びを深める取り組みです。

今年度は、1時間の授業を45分から40分にし、生み出した時間を朝8時からの「プラスタイム」として設定しています。国語の漢字や算数の四則計算等、学習の基礎基本を身に着けたり、学習の導入やまとめ、振り返り等、学びを深めたりする時間として、子供たちに必要な力を身に付けるために活用します。新たな取り組みの2つ目として、毎週金曜日の放課後に「クロスタイム」を設定しました。これは、教師の勉強の時間です。授業の進め方の基礎から、ベテラン教師の技の伝授、最新教育技術の研究まで、教師の授業力を高める場とし、この時間で学んだことをしっかりと子供たちへ還元していきます。

この日課を実施するにあたり、期待できる効果を次のように考えます。まず、集中力が持続しやすい午前中に5時間授業を行うことで、学ぶべきことがしっかりと身に付きます。また、1時間の授業を5分短縮することで、ポイントを絞った活動となり、必要な力がきちんと定着することが期待できます。また、サポート体制が手厚い午前中に大切な活動を行うことによって学習内容のより確かな定着を図ります。外部講師を招いての授業や、校外学習の際は、午前中に5コマの枠があると柔軟な対応が可能です。プラスタイムと組み合わせることで、活動に応じた時間配分を行うこともできます。このような取り組みによって、子供たちの学びを充実させる環境づくりを目指していきます。

この日課を実施するにあたり心掛けていくポイントは、1時間1時間の授業をデザインすることです。教師が子供たちの自ら学ぶ意欲を高める場面を意図的に設定し、子供たちの自己調整力を高めていきます。柔軟に日課が組めるからこそ、教師も子供も時刻を意識し、授業の開始時刻を守り、休み時間をしっかりと確保し、メリハリのある学校生活となるようにします。時刻の意識化が「心のゆとり」につながります。この日課のメリットを最大限生かすことで、子供たちの確かな学びを保証していきます。

「サキドリ研究」を進めていくなから、今年度も「みんなの居場所がある学校」を目指します。子供たち一人一人が所属感ややりがいを見出せるように、目の前の子供たちのニーズに気付き、子供たちのために何ができるかを真剣に考え、誠意と思いやりをもって行動していきます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

(学校説明会 校長の話)